

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	現代日本の建築家の設計論にみられる時間認識
Title(English)	
著者(和文)	大嶽陽徳
Author(English)	Akinori Ootake
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10203号, 授与年月日:2016年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:奥山 信一,屋井 鉄雄,安田 幸一,那須 聖,藤田 康仁
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10203号, Conferred date:2016/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

(論文博士)

論 文 要 旨 (和文2000字程度)

報告番号	乙 第 号	氏 名	大嶽 陽徳
<p>(要 旨)</p> <p>本論文は、「現代日本の建築家の設計論にみられる時間認識」と題し、以下の6章で構成した。</p> <p>第1章「序論」は、研究の目的と意義、研究の資料と方法、および論文の構成と概要を位置付けるものである。本章ではまず、本論文が設計思想を構想する上で基盤となる重要な概念の時間認識を検討するものであり、さらに、そうした建築設計における時間認識が、建築家自身の設計主題や表現方法などの内面的テーマに対するもの、社会や都市などの建築家の外面的テーマに対するもの、および双方のテーマに関わるものの3つに大別して捉えられ、それらは、連作、記念館建築、増改築建築といった題材で見出すことが可能であることを指摘した上で、現代日本の建築家による上記3つの題材の設計論を資料としてそれぞれの時間認識の内容と特性を捉えるとともに、それらを相互に比較・検討することで、現代日本の建築家の時間認識に関する思考の枠組みの一端を明らかにすることを本論文の目的として位置付けた。</p> <p>第2章「増改築建築の設計論にみられる時間認識」では、建築家の内面的テーマおよび外面的テーマの双方に関わる時間認識が、建築の設計を取り巻く環境の変化に対していかにデザインを位置づけるかという『時間モデル』で捉えられることを明示した上で、それらと実現手法の関係を検討する。その結果、環境の変化に関する意味内容が生活、社会、都市・農村、自然といった4つで把握でき、『時間モデル』が環境の変化に対して特定の状態を持続させるものと新しい状態に更新させるものという対立する内容、および環境の変化にともなって理想的な状態に収束させるという内容で位置付けられ、これらの対応から、生活と更新、および社会と持続が関連して論じられること、さらに実現手法との関係から、前者は部位・部材によって、後者は空間によって具現化される傾向があることを明らかにした。</p> <p>第3章「連作に関する設計論にみられる時間認識」では、建築家の内面的テーマに対する時間認識が、一連の作品群に共通した主題のもと、作品相互の建築表現をどのように関係づけるかという『建築表現の関係性』と、建築表現の基となるモデルをどのように想定するかという『モデルの想定形式』で捉えられることを明示した上で、これらの関係を検討する。その結果、一連の作品群に共通した主題は形態、空間、構成、構法・技術、周辺環境との関係の5つで把握でき、『建築表現の関係性』は類似性と差異性といった対立する内容で捉えられ、『モデルの想定形式』は演繹的なものと帰納的なもので位置付けられ、これらの対応から、形態では『モデルの想定形式』によらず差異性と、空間では『モデルの想定形式』に応じた『建築表現の関係性』と、構成では演繹的な形式における差異性と、構法・技術では帰納的な形式における類似性および差異性との関連があることを明らかにした。</p> <p>第4章「記念館建築の設計論にみられる時間認識」では、建築家の外面的テーマに対する時間認識が、記念性に関わる設計根拠から捉えられることを明示した上で、それと実現手法との関係を検討する。その結果、記念性に関わる設計根拠は、人物の業績や歴史的事件を後世に伝えるといった記念性に固有の側面に着目した内容である固有的側面と、記念対象と関連した都市環境への対応など記念性に関連した側面に着目した内容である関連的側面で把握でき、設計論における組合せでは、固有的側面は関連的側面とともに根拠として論じられる傾向があること、さらに実現手法との対応から、固有的側面を建築の部分的な要素で具現化し、それに加えて関連的側面を建物全体の形態により具現化する傾向があることを明らかにした。</p> <p>第5章「現代日本の建築家の時間認識」は、第2章から第4章の検討で得られた知見をもとに、内面的テーマに対する時間認識について、それに特化した場合(第3章)と外面的テーマと関わる場合(第2章)を比較することで検討し、さらに外面的テーマに対する時間認識について、それに特化した場合(第4章)と内面的テーマと関わる場合(第2章)を比較することで検討するものである。その結果、内面的テーマに対する時間認識は、時間の経過のなかでの持続性、および未来と過去という時制への思考といった枠組みで捉えることができ、外面的テーマに対する時間認識は、生活、社会、都市、自然といった建築の設計を取り巻く4つの環境との関係で時間を認識するといった枠組みで捉えることができ、前者の時間認識は、未来の理想的状態を見据えて、持続と更新に対する明瞭な思考をする傾向があり、こうした思考は、後者の時間認識の特徴的な思考である、社会と都市との関係でのなかで認識される傾向があることを明らかにした。</p> <p>第6章「結論」は、以上各章で得られた結果をまとめ、本論文で得られた知見を総括する。</p>			

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

(論文博士)

論 文 要 旨 (英 文) (300語程度)

(Summary)

報告番号	乙 第	号	氏 名	大嶽 陽徳
<p>(要 旨)</p> <p>This thesis aims to illustrate contemporary Japanese architect's "Thoughts on the Time", which is the thinking of architecture in consideration of the flow of time. That "Thoughts on the Time" is one of the important conception for designing architecture and is considered in three aspects; the first one is the theme unique to the architect's internal side, such as his own design motives and methods, the second one is the theme unique to the architect's external side, such as social situation and urban condition, the last one is theme on those both side.</p> <p>From that point of view, firstly each aspect of "Thoughts on the Time" were considered by investigating the design theories on three subjects; the first one is a series of works by one architects with the same design theme, the second one is the memorial building, the last one is the extension and reconstruction building. Then several characteristic indexes to the framework of the each aspect of "Thoughts on the Time" were founded.</p> <p>Secondly through comparing those characteristic indexes, the framework of "Thoughts on the Time" was considered.</p> <p>Consequently, the following framework of two sides of "Thoughts on the Time" and its characteristic tendencies were founded. The framework of "Thoughts on the Time" about the theme on the architect's internal side was how to intent the change in architect's own architectural expression and the characteristic tendency which is "Continuance" or "Renewal" of architect's own architectural expression was founded. On the other hand the framework of "Thoughts on the Time" about the theme on the architect's external side was how to perceive the continuity and modernity about the situation surrounding architecture and the characteristic tendency which is the modernity of "Social-Environment" or "Urban-Environment" was founded.</p>				

備考：論文要旨は、和文2000字と英文300語を1部ずつ提出するか、もしくは英文800語を1部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).